

中央アジアを介したアフガニスタン支援のあり方についての国際会議  
～エネルギー・貧困問題解決による社会の安定化の可能性について～

2001年の「9.11事件」とその後の米国による侵攻から18年が過ぎた今日でさえ、アフガニスタンは安定していない。さらに、同国はタリバンが全土で活動するだけでなくISも浸透するなどイスラーム過激派の温床となり、テロや麻薬の供給地となっている。

アフガニスタンの安定化は国際社会の喫緊の課題であるが、米国はアフガニスタンからの撤退を模索してきた。仮にトランプ政権下での完全撤退が決定されれば、中国やロシアの介入が強まり、事態はさらに不透明化することが確実である。他方、アフガニスタンと国境を接し文化的、民族的、歴史的な強い紐帯を持つ中央アジア諸国にとって、アフガニスタン問題は直接的な安全保障課題であり、国連などを巻き込みながら様々な解決策が模索されてきた。

本会議では、中央アジアを通じたアフガニスタンの安定化に対して、日本や国際社会がとり得る支援のあり方について検討する。特に、復興課題としてエネルギー・インフラに着目する。安定的なエネルギー供給は経済発展や政治・社会の安定化に不可欠であり、中央アジアはアフガニスタンに対する安価なエネルギー供給地となり得る。今回は、Central Asia-South Asia power project (CASA-1000)という中央アジア～南アジアを結ぶ大規模電力網構築プロジェクトの担当者を招き、アフガニスタンのエネルギー分野への国際的支援の現状と課題について議論する。

登壇者：

- Mr. Aminullah Lashkari: Country Coordinator in Afghanistan, CASA-1000 Project
- Dr. Furugzod Usmonov: Country Coordinator in Tajikistan, CASA-1000 Project
- 稲垣文昭（秋田大学大学院国際資源学研究科講師）
- 伊藤庄一（一般財団法人 日本エネルギー経済研究所研究主幹）
- 保坂修司（一般財団法人 日本エネルギー経済研究所 中東研究センター長）

（報告・質疑は英語、同時通訳なし）

日程：2019年12月16日（月） 15:00-17:00

場所：日本エネルギー経済研究所 大会議室

〒104-0054 東京都中央区勝どき 1-13-1 イヌイビル・カチドキ 11階

参加費：無料

ご参加希望の方は、([https://jime.ieej.or.jp/event\\_detail.php?event\\_info\\_\\_id=78](https://jime.ieej.or.jp/event_detail.php?event_info__id=78))より12月12日（木）12時までにお申し込み下さい。

※ 本会議は、公益財団法人りそなアジア・オセアニア財団の助成を受け、秋田大学大学院国際資源学研究科および日本エネルギー経済研究所の共催で行う。